

## ◆今期間のポイント

## ＜主要じょう乱の概要＞

- 30日は、低気圧が日本海から北日本付近へ進み、前線が西・東日本付近を東進する。
- 5月1日は、低気圧は千島近海へ進み、前線が北・東日本付近を通過する。高気圧が朝鮮半島に進む。
- 2日は、高気圧が日本海から東日本付近に進む。前線は日本の南から東シナ海へのびる。
- 3日は、高気圧は日本の東へ進むが、別の高気圧が朝鮮半島付近に進む。
- 4日は、高気圧が日本海に進む。前線が華中から東シナ海にのびる。

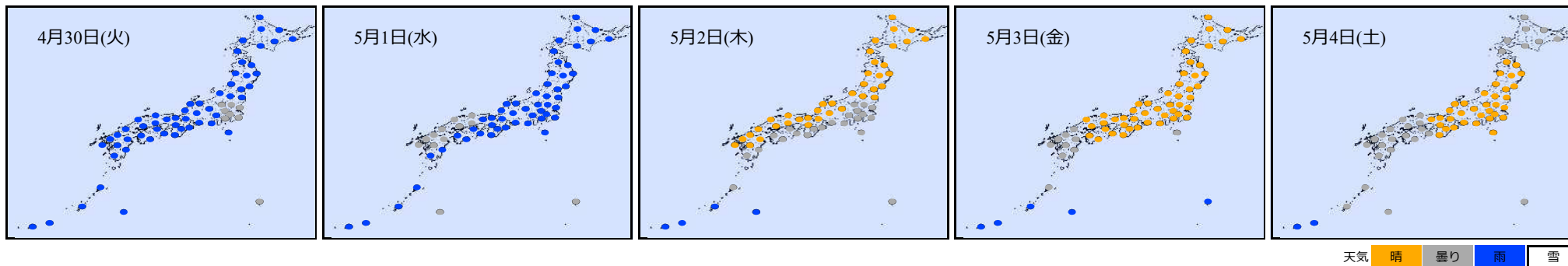
## ＜防災事項＞ 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 気温は平年より高い日が多く、積雪の多い所ではなだれ等に注意。
- 令和6年能登半島地震で揺れの大きかった地方は地盤の緩んでいる所があり、少しの雨でも土砂災害の危険度が高まるおそれがある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

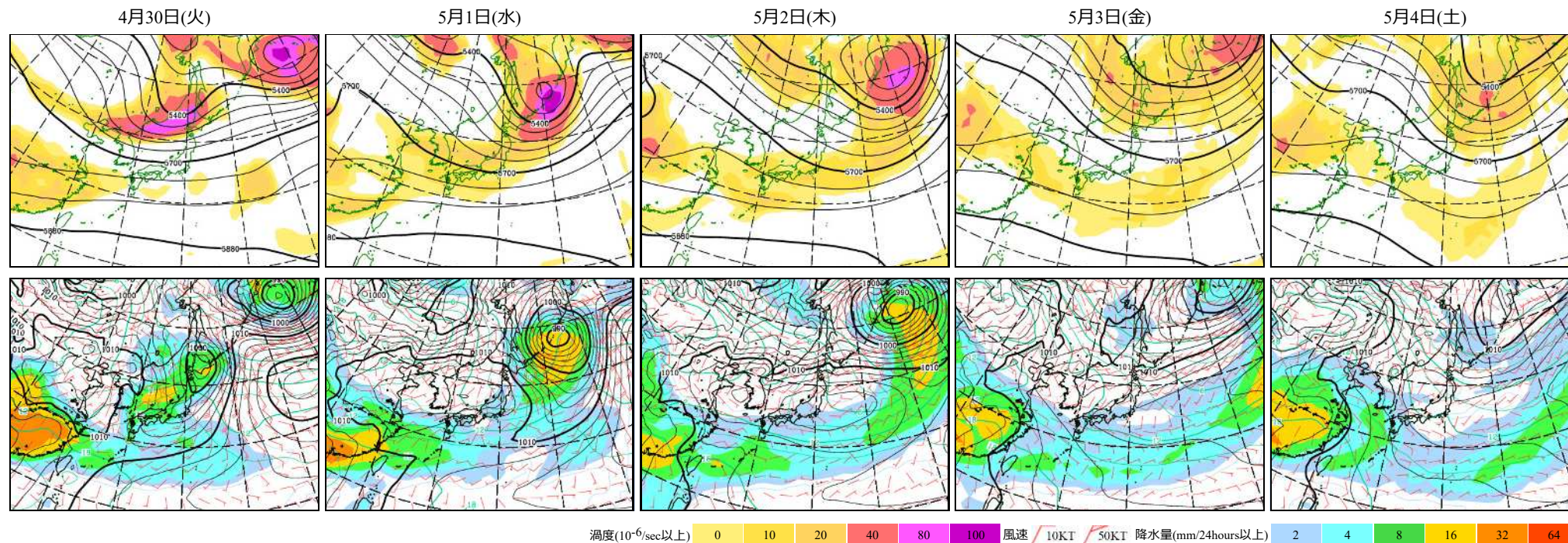
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

## ◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

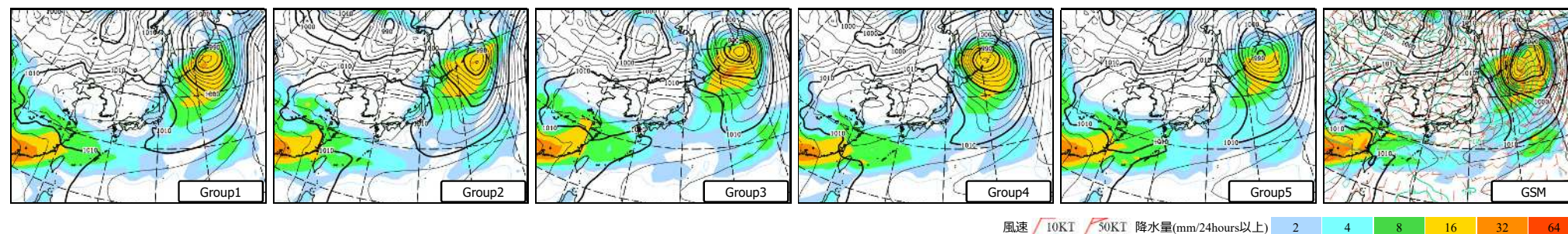


- 北日本から西日本にかけては、30日と5月1日は曇りや雨の降る所が多いが、その後は晴れや曇りの所が多い。
- 沖縄・奄美は、曇りや雨の降る日が多い。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆5月1日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、30日から1日に日本付近を通過するトラフがやや早まった。また、3日から4日に北日本付近から日本の東に進むトラフが深くなり、後続のリッジが明瞭となった。地上は、1日は低気圧や前線の東進が早くなった。
- 昨日資料では、2日頃に海外モデルが予想していた日本海の寒冷渦は、本日資料では見られなくなり、リッジが日本海を東進する予想で各モデルが揃ってきた。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考えるが、5月1日は海外モデルの予想を参考に、FEFE19で予想されている日本の東の降水域を広げて考える。

今日から明日までの解説は「短期予報解説資料」を参照ください。